

開催の主旨

人類が21世紀以降も安定的に存続するためには、現在の社会を自然環境に調和したシステムに改めていかなければなりません。

大量廃棄を改め、省エネルギー・省資源に努め、廃棄物の再資源化・適正処理によって、環境負荷を低減する循環型社会の構築が必要であることは既に指摘されています。

具体的にどのような循環型社会の実現を目指すのか、マスタープランの設計、考案とその具体化が喫緊の課題となっています。

人間が効率のよさと便利さを求めて、作り過ぎ、あふれさせてしまった「モノ」その反面、自然界から続々と消えていく「生物たち」。今後は「モノ」を適切に処理し、自然界の許容量内に収めると同時に、「自然界の生物の再生を図るまたは、生物の存続を維持していく」ことがさし迫った課題なのです。

今回のワークショップでは「持続可能な循環型社会を実現するために」を募集課題とする特別研究助成に採択された研究チームからその研究成果をご報告いただきます。

この研究は、20世紀の、特にその最後の四半世紀に大きく損なわれた生態系の健全性と生物多様性を取り戻すことが、人類が持続可能性を確保するために取り組むべき最重要課題の一つであり、「『自然再生』を含む生態系管理は、市民・行政・研究者の協働によって進められる必要がある」との理念と、生態系という複雑で挙動の予測が困難な対象を取り扱うためには「順応的管理」で進めるべきであるとの考えに基づく「なすことによって共に学ぶ」実践研究です。

まず最初に、「協働調査」につきましてご理解いただくために、研究チームの代表研究者である東京大学大学院の鷺谷いづみ教授に主旨説明をしていただき、続きまして、東京大学大学院の鬼頭 秀一教授と財団法人 日本自然保護協会の開発 法子専門部長に、それぞれ「生物多様性・モニタリング・参加をめぐって」と「自然をまもるための市民調査」をテーマに講演していただきます。

その後、4人の方々よりそれぞれの「協働調査」につきましての実践活動報告をいただき、最後に鷺谷 いづみ教授に全体のまとめと、会場との意見交換のコーディネートをしていただきます。

今回のワークショップの開催が「自然環境と調和した社会の実現」のために、私たちが今取り組むべきことをご理解いただき、これからの環境・地域・社会の再生に取り組むための第一歩を踏み出すきっかけとなつていただくことを強く願っています。